

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「土佐日記」 門出、問題

男も^①す^アなる日記と^②いふものを、女も^③して^④み^イむとて、^⑤する^ウなり。

その年の十二月の二十日あまり一日の日の戌の時に門出^⑥す。その由、いささかにものに^⑦書きつく。

ある人、県の四年五年^⑧果てて、例のことどもみな^⑨し終へて、解由など^⑩取りて、^⑪住む館より^⑫出でて、船に^⑬乗る^エべき所へ^⑭渡る。かれこれ、^⑮知る^⑯知らぬ、送り^⑰す。年ごろよく^⑱比べ^カつる人々なむ、別れ難く^⑲思ひて、日しきりにとかく^⑳しつつ、^㉑ののしるうちに、
夜^㉒更け^キぬ。

二十二日に、和泉の国までと、平らかに願^㉓立つ。藤原のときぎね、船路^㉔なれど、馬のはなむけ^㉕す。上中下、^㉖酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、
^㉗あざれあへ^ケり。

二十三日。八木のやすのりと^㉘いふ人^㉙あり。この人、国に必ずしも^㉚言ひ使ふ者にも^㉛あら^㉜ざ^サなり。これぞ、たたはしきやう^㉝にて、馬のはなむけ^㉞し^㉟ス^㊱たる。守柄^㊲にや^㊳あら^㊴む、
国人の心の常として、「今は。」とて^㊵見え^㊶タ^㊷ぎ^㊸なるを、心^㊹ある者は、^㊺恥ぢ^㊻ず^㊼になむ
^㊽来^テける。これは、物に^㊾よりて^㊿褒むる^㊽にしも^㊾あら^㊿ナ^㊽ず。

二十四日。講師、馬のはなむけ^㊿し^㊽に^㊾出でませ^㊿ニ^㊽り。^㊿ありと^㊽ある上下、童まで^㊿酔ひ痴れ
て、一文字をだに^㊿知ら^ヌぬ者、しが足は十文字に^㊿踏み^㊽てぞ^㊿遊^㊽ぶ。

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「土佐日記」 門出」 解答

男も^①す^{サ変終}アなる日記と^②いふものを、女も^③して^{サ四用}④み^{マ上一未}むとて、^⑤する^{サ変終}ウなり。^{断定}

その年の十二月の二十日あまり一日の日の戌の時に門出^⑥す。^{サ変終}その由、いささかにものに

^⑦書きつく。^{サ下二終}

ある人、県の四年五年^⑧果てて、^{タ下二用}例のことどもみな^⑨し終へて、^{ハ下二用}解由など^⑩取りて、^{ラ四用}⑪住む館^{マ四体}

より^⑫出でて、船に^⑬乗る^{ラ四終}エべき所へ^⑭渡る。^{当然}かれこれ、^⑮知る^{ラ四体}⑯知らぬ、^{打消}送り^⑰す。^{サ変終}年ごろよく

^⑱比べ^{バ下二用}かつる人々なむ、別れ難く^⑲思ひて、^{ハ四用}日しきりにとかく^⑳しつつ、^{サ変用}㉑ののしるうちに、^{ラ四体}

夜^㉒更け^{カ下二用}キぬ。^{完了}

二十二日に、和泉の国までと、平らかに願^㉓立つ。^{タ下二終}藤原のときぎね、船路^{断定}くなれど、

馬のはなむけ^㉔す。^{サ変終}上中下、^{カ四用}酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、

^㉕あざれあへ^{ハ四已}ケり。^{存続}

二十三日。八木のやすのりと^㉖いふ人^{ハ四体}あり。^{ラ変終}この人、国に必ずしも^㉗言ひ使ふ者にも^{ハ四体}あら^{ラ変未}

ござ^{打消}なり。^{推定}これぞ、たたはしきやう^{断定}シにて、馬のはなむけ^㉘し^{サ変用}スたる。^{完了}守柄^{断定}セにや^{ラ変未}あら^{推量}ッむ、

国人の心の常として、「今は。」とて^㉙見え^{ヤ下二未}タぎ^{打消}なるを、心^㉚ある者は、^{ラ変体}㉛恥ぢ^{ダ上二未}ッず^{打消}になむ

^㉜来^{カ変用}テける。^{過去}これは、物に^㉝よりて^{ラ四用}褒むる^{マ下二体}トにしも^㉞あら^{ラ変未}ナず。^{打消}

二十四日。講師、馬のはなむけ^㉟しに^{サ変用}出^{ダ下二用}でませ^{完了}ニり。^{ラ変用}ありと^{ラ変体}ある上下、童まで^㊱酔ひ痴れ^{ラ下二用}

て、一文字をだに^㊲知^{ラ四未}ラぬ者、しが足は十文字に^㊳踏^{マ四用}みてぞ^{バ四体}遊^{打消}ぶ。